

# 平成 30 年度第 1 回知床世界自然遺産地域連絡会議

## 議事概要

平成 30 年 10 月 22 日 10:00 ～ 12:00

羅臼町商工会館 2 階ホール

## 議事次第

1. 環境省・林野庁・北海道事業の報告・予定
2. 科学委員会からの報告
3. シンボルマーク部会からの報告
4. その他

●開会挨拶（北海道環境生活部生物多様性保全課自然公園担当課長）

●鈴木羅臼副町長ご挨拶

議事 1. 環境省・林野庁・北海道の実施事業報告

- 資料 1－1：平成 30 年度 環境省・林野庁・北海道事業の報告・予定  
… 環境省、林野庁、北海道より説明。
- 資料 1－2：「平成 29 年シカ年度」エゾシカ対策事業結果  
… 環境省、林野庁、北海道より説明。
- 資料 1－3：平成 30 年度 斜里町・羅臼町のヒグマ目撃・対応状況について  
… 知床財団より説明。
- 資料 1－4：「世界自然遺産・知床の日」の取組について（案）  
… 北海道より説明。

ウトロ地域協議会（桜井）：資料 1－1 No.14 携帯トイレについて、リーフレットを作成・配布する予定であり、まだ実施していないとの認識で良いか。

北海道（小林）：継続して行っている事業であり、毎年 3 月にパンフレットを作成し配布している。

斜里町（増田）：資料 1－2 隣接地域の狩猟期間について、羅臼町は 10 月 1 日から、斜里町は 10 月 20 日から開始となっているので注意願いたい。

議事 2. 科学委員会からの報告

- 資料 2－1：平成 30 年度第 1 回知床世界自然遺産地域科学委員会報告  
… 環境省より説明。
- 資料 2－2：平成 30 年度科学委員会・ワーキンググループ等の予定  
… 環境省より説明。
- 資料 2－3：各ワーキンググループ等の検討状況等について  
… 環境省、林野庁及び北海道より説明。
- 資料 2－4：第 41 回世界遺産委員会決議の対応について  
… 環境省より説明。
- 資料 2－5：知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画の見直しについて  
… 環境省より説明。
- 資料 2－6：平成 30 年度日露隣接地域における生態系保全協力に関するプログラム事業について  
… 環境省より説明。

ウトロ漁協（蠣崎）：第 41 回世界遺産委員会決議の対応について、決議に対する回答を 12 月の提出に向けて作成していくとのことだが、斜里町の漁業といえばさけ・ますであり、治山ダムや河床路が関係してくるので、慎重にしっかりと進めてほしい。

北海道（小林）：林野庁と北海道が協力しながら進めているところであり、治山ダムの工事方法や時期については、決まり次第報告させていただく。

林野庁（服部）：河床路の工事は、11 月から本格的な作業に入るが、地元漁業関係者へ情報を提供しながら進めていく予定である。

知床財団（佐々木）：保全状況報告にはトドの駆除に対する勧告への回答を記載するが、羅臼漁協をはじめとする地元漁業関係者の合意は得られているのか。

北海道（小林）：記載内容については、羅臼漁協を含め地元漁業関係者が参画する海域ワーキンググループで検討されている。文言修正等についても、漁業関係者へ情報を提供しており、地元漁業関係者の合意は得られていると考える。世界遺産委員会がどのような反応を示すかわからないが、地域の実情を踏まえた知床の現状を報告する予定である。

ウトロ地域協議会（桜井）：日露隣接地域生態系保全協力プログラムについてだが、以前に、羅臼町長が、北方四島における風力発電施設開発が引き起こすバードストライクへ懸念を抱いていると地域連絡会議で発言している。今年度も北方四島における野生動植物専門家の交流が行われているが、バードストライクの影響について話し合われたのか。

環境省（高辻）：環境省の本省対応であるため、専門家交流の内容については確認後報告したい。

羅臼町（遠嶋）：平成 29 年度日露隣接地域生態系保全協力プログラムに羅臼町がオブザーバーとして参加し、バードストライクに懸念を抱いていることを伝えた。研究者の方々からは、環境影響評価を実施する必要があること、また、それぞれの活動の場で調査の必要性やバードストライクについて発言していくとの意見をいただいた。環境省は、共同経済活動の議論の場に関われるよう尽力するとのことだった。

北方四島には、経済だけではなく引き揚げた方々の土地の問題等もあるが、全く情報が入ってきていない。日本政府としてもっと丁寧に進めてほしい。

### 議事 3. シンボルマーク部会からの報告

■資料 3：平成 30 年度シンボルマーク使用申請許可状況等について

… 北海道より説明

質問・意見なし

#### 議事 4. その他（地域連絡会議設置要綱）

##### ■資料 4：知床世界自然遺産地域連絡会議設置要綱について

… 北海道より説明

質問・意見なし

#### （全体を通じて）

知床財団（村田）：斜里町長から伝言を預かっているので発言する。

知床世界自然遺産地域の保全、知床国立公園の管理に関して、環境省の積極的な姿勢が感じられない。地元における体制も、ウトロ自然保護官事務所の定員が2名から実質1.5名と削減されている。環境省に管理体制を主導していただきたいと考えているので、適正な職員の配置をお願いしたい。

私の補足となるが、十数年前に環境省にこのような場を設置していただき、そこに林野庁や北海道などの関係機関も積極的に参画したので、地元も期待をして、現在まで知床の保全・管理を進めてきた。各関係機関も苦勞しながら人員体制等を維持している。環境省の体制面の維持・強化についてよろしくをお願いしたい。

環境省（徳田）：いただいた意見は地元の方々からすればもっともであるが、環境省もゴミの問題あるいは除染の問題等いろいろな分野の仕事が増えてきており、人員体制に関するご意見を各地でいただいている。知床の遺産を後世に引き継ぐことができるよう、自然保護に携わる人員を組織として増やしていかなければならないと考えている。日本を支える自然環境の核が一つずつないがしろにされつつあることも含め、本省にこの旨を伝え、斜里町長にお会いする機会があれば、別途お話をさせていただきたい。

環境省（山本）：環境省としても、もっと地域に貢献したいと思うが、各地域に自然保護官事務所が新設されており、2名体制の事務所は新設された事務所に人員を配分するという動きが出てきている。知床五湖の歩道整備に関しても、撤退する北海道から引き取り、環境省が実施するという方針になっている。人員は減っているかもしれないが、環境省としても知床には積極的に投資している状況である。維持管理費についても、本年度は大きく増額している。

知床財団（村田）：この地域連絡会議は、全体の意思確認の場でもあることから、斜里町・羅臼町の町長が出席出来るよう日程調整をお願いしたい。

北海道（小林）：会議の日程調節は極力早めに、皆さんが参加できる形にさせていただく。

知床財団（佐々木）：設置要綱の構成団体についてだが、斜里町からはウトロ地域協議会など地域に密着した団体が参画しているが、羅臼町からは参加していない。羅臼町を代表する団体の参画が必要であると考えます。

また、他の会議でも話し合われたが、知床先端部では旅行者の死亡事故が起きており、利用者の安全をはかるという見地が足りていないと感じるので、遺産地域はこのような問題を抱えているということを確認していただきたい。

北海道（小林）：地域連絡会議の中では、このことについてなかなか議論できない。どのような場で、どのような関係機関が、どのように連携を取りながら議論していくか、すぐに結論は出ないかもしれないが、事務局で相談させていただく。

環境省（守）：「知床国立公園利用のあり方に関する懇親会」では、適切なスキルのある人だけを入れなければいけないのではないかと、というような地域の皆様の意見をいただいているが、実際に事故が起こったときにどうするかは議論できていない。

ウトロ地域協議会（桜井）：知床五湖で野生のミンクが何件か目撃され、知床岬でも何年前前にアライグマが確認されている。これら外来種への対応について、知床国立公園としてどのように取り組んでいけばいいのか。例えば、植生に関しては地域住民と共同しており、害虫駆除については遺産地域内から駆除しようという方向で取り組んでいる。外来種についてどのように取り扱うのか。

環境省（徳田）：知床岬を中心とした幾つかの地点で、カメラを設置し、アライグマが写っているかどうかを確認する事業を、今年度実施している。国立公園内の外来種対策については、例えば釧路湿原で要注意外来植物を抜いていくなど、パークボランティアに協力していただきながら実施している。もとの自然を取り戻すための対策事業を、可能な限り予算をつけて行っている。

知床岬のアライグマや知床五湖のミンクは、個体数が多いわけではないので、捕獲を試みてもほとんど捕まらないのが現状である。環境省職員も巡視等の中で情報を集めており、個体数が少ない中でどのような対策ができるのか専門家の助言を受けている。外来生物を発見したら地元の自然保護官事務所に知らせていただきたい。こうした情報を集め、自然地域の保全に活かして行きたいと考えている。

以上